常識を逸した岡本市長提出の副市長人事案件を言語道断！これまた、議会が無記名投票により同意採決！

（賛成議員10名　反対議員6名）

本会議初日の3月22日、突如、岡本市長から、柏原病院事業管理者の田中氏を副市長に選任することに同意を求める議案が提出され、本会議最終日の3月28日、無記名投票（賛成議員10名　反対議員6名）により、吉田氏が副市長に選任された。

吉田管理者といえば、赤字垂れ流しが続く市立柏原病院の事業経営を立て直すために、市長の肝入りでその任に就いた人物である。同氏はまだ、2年足らずの任期で経営は相変わらずの大幅赤字が続き、先般、マスコミを騒がせた医療機器の不正入札疑惑問題では警察も動き、いまだその実態については明確な結論が出ていないのである。

吉田氏に管理者としての能力があるのなら、これから先がその能力を発揮し、大幅赤字の病院経営を立て直す期間となるのでないだろうか。

この副市長選任案件を提出した岡本市長の見識は、まさに言語同断、論外の話であるが、これを受けた吉田氏の見識にも疑問を持たざるを得ない。

否決を恐れた岡本市長が議案提出を延期!?

今回の副市長選任については、岡本市長のあまりの非常識な案件提出に対し、一部の議員から異義の申し立てがあり、副市長選任を無記名投票により採決することの決定がなされたが、岡本市長は、突如、この案件を議会最終日の3月28日に採決するという策に変更したのである。

この間、岡本市長は、無記名投票では同意を得ることが難しいと思ったのか、各会派を説得して回ったことを数人の議員が証言をしている。

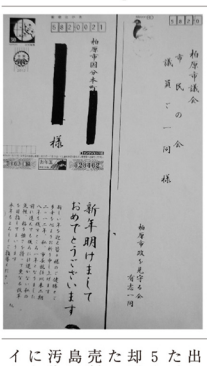
明らかに圧力を目的とした差出人不明の封書が各会派に届く！

さらに、3月23日ごろには、明らかに各会派に圧力をかけるための、『封書』が各会派宛に郵送されてきたのである。

差出人は「柏原市改革を見守る会　有志一同」である。中身は議会運営委員会（一般市民には周知されていない）が、採決方法を無記名投票によると決定したことに対する抗議文であり、「後ろ暗い、腹黒い、姑息な無記名投票は市民から見て、信頼のおけぬ議員に見えて恥ずかしい」などの内容が書かれていた。

起立採決で市長に睨まれ、後の仕返しを恐れる議員も議員であるが、名前も出さないで抗議・圧力を掛ける無記名の差出人も、言わば「一つ穴のむじな」である。

年賀はがきの書体と封書の書体が酷似



なお、この封書の書体が、先般、ある地方行政のトップが公職選挙法に違反して出した年賀はがきの書体と酷似しているのはたまたまの偶然なのだろうか？この問題は議会の根幹を揺るがす問題でもあり、今後の解明を検討中である（参考に書体を掲載）。

3月28日の本会議では、藤森議員が、岡本市長が出したこの言語道断・論外の副市長人事案件についてその適否を厳しく追及したが、なんと岡本市長は、「市立柏原市病院に何かありましたか？副市長適任者として吉田管理者しか頭に浮かびなかった」などと、まるですっとぼけた様子で答弁をしたのである。

柏原市の水路から基準値2.3倍のダイオキシンを検出!!

読売新聞が、「国土交通省近畿地方整備局は28日、柏原市峠の『亀の瀬地すべり防止地区』の水路の水から、環境基準値を2・3倍上回るダイオキシン類が検出した」と発表をした。同地区は1965～75年ごろに焼却灰が埋められていた（3月29日付　読売新聞）。現在、福島原発による放射能汚染は全国的な問題になっているが、ダイオキシンも毒性が強く分解されにくい化合物で、皮膚や内臓障害を起こし、催奇形・発がん性があるものも少なくなく、ゴミの焼却の製紙の汚泥、自動車の排ガスなどに含まれ、環境汚染を起こすと言われている。

柏原市では、平成21年、かしわら見張り番が、東山の産業廃棄物不法投棄（残飯・廃プラ・タイヤ・金属・医療廃棄物等）の問題で、当時、その不法投棄をしていた業者（K社）で働いていた従業員が、自責の念から大阪府や地元警察に調査の訴えをしていた事実を公表している。当時、理由は不明であるが、大阪府があえて告発をした従業員を立ち会わせずに、全く的を外した場所（柏原市雁多尾畑）を掘り、結果、重大な環境影響を及ぼす事実は確認できなかったとして、うやむやな調査結果を出しているが、今後、本当に、柏原の宝ともいわれる山や川の自然に、環境破壊の危険が出てくることはないのだろうか？元従業員の話では、相当膨大な量の危険物が不法に投棄されているということである。

かしわら見張り番は、今後も、市や業者の責任の所在を追求していく予定である。